

2023年度以降入学生用 常磐大学 人間科学部 現代社会学科 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

- 建学の精神

実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。
- 教育理念

自立・創造・真摯
- 学科の教育研究上の目的

(1)社会学的な観点から、人間が生きる世界の仕組みや人々が幸せに生きることができる仕組みを学び、変動する現代社会の中で生き抜く力を備え、福祉社会を創造することのできる人材を養成する。
(2)実証性を重視し、常に現実の中から問題を発見し、その解決および改善を考えていくことができる能力を修得させるための教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	学士の学位授与
(1)編成方針 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた人材養成の目的を達成するために、知識の修得という側面だけでなく、実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、変化し続ける現代社会を総合的に捉えることのできる能力の涵養を目指したカリキュラムを体系的に編成します。		1年次	2年次	3年次	4年次	現代社会を構成する様々な人間と社会を幅広く理解した上で社会現象を総合的に認識することができ、人間科学と社会科学の視点を活かしながら、倫理観に基づく健全な批判精神を発揮して同時代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる人材を養成します。	
(2)実施方針	(1)全学共通科目、学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。	学びの技法Ⅰ・Ⅱ 統計の基礎 情報処理Ⅰ・Ⅱ キャリア形成と大学 社会調査入門 英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	英語Ⅴ、Ⅵ	人間科学概論		1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身に付けている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	
	(2)学科基本科目では、学科の学修の導入科目「現代社会論」によって現代社会の諸相を社会学的視点から俯瞰的に教授し、現代社会と社会学の基礎的理解を図ります。また、「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会学史」などの基礎社会学に係る講義科目および「社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「社会学応用演習」などの演習科目を通して、社会学を学ぶ上で要される基礎的知識と社会学的思考を段階的に習得する教育を展開します。	現代社会論 社会学概論Ⅰ 社会学研究法 社会学基礎演習Ⅰ 社会学基礎演習Ⅱ	社会学概論Ⅱ 社会学応用演習	社会学史			
	(3)学科専門科目の「方法論・データサイエンス領域」では、社会調査や社会統計学を基盤として社会学の方法論に関する能力の涵養を図ります。現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解く力を身につけるために、「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」「社会調査法演習」「データサイエンス概論」「データサイエンス各論A・B」などの授業を通して、実証性を重視した実践的な社会調査教育およびデータサイエンス教育を展開します。	社会調査法Ⅰ	社会調査法Ⅱ 社会調査法演習 社会統計学 データサイエンス概論 データサイエンス各論A データサイエンス各論B 地理学特論A 地理学特論B 地理学特論C	量的データの扱い方 質的データの扱い方 社会調査実習 データ分析演習		2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	
	(4)学科専門科目の「家族・福祉社会領域」では、人間の生活の基礎を支える集団や制度に関する理解を図るため、「家族社会学」「産業・労働社会学」「社会保障」などの応用社会学や社会福祉学の科目群を設置し、自己の生きる社会の基礎的構造についての理解を深める教育を展開します。	家族社会学 産業・労働社会学	保健・医療社会学 ライフコースの社会学 社会福祉の原理と政策 社会保障 児童・家庭福祉 高齢者福祉 ソーシャルワークの理論と方法 民事法	消費社会論 家族・福祉社会特講			
	(5)学科専門科目の「公共・地域社会領域」では、人間が他者と共存するために構築する公共性と共同空間としての地域社会の特性を理解するために、「地域社会学」「都市社会学」「農村社会学」「地域研究特講」「公共性の社会学」「テクノロジーの社会学」などの科目群を設置し、現代社会の諸相を公共性から再考し、問題意識の深化を促す教育を展開します。	地域社会学	都市社会学 農村社会学 国際社会学 公共性の社会学 環境社会学 犯罪社会学 刑事法 交通地理学	エスニシティの社会学 テクノロジーの社会学 災害社会学 地域研究特講		3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身に付けている。(態度)	
	(6)学科専門科目の「文化研究領域」では、「文化」の視点から現代社会を多面的に捉え、現代社会の多様性とそれへの対応について理解を深める教育を展開します。「文化社会学」「宗教社会学」などの応用社会学のみならず、「社会人類学」「民俗学」「都市地理学」「社会史」などの社会学関連科目も積極的に科目群に取り入れ、学問横断的に社会と文化についての学修を深めます。	文化社会学	宗教社会学 社会人類学 スポーツ社会学 スポーツ人類学 都市地理学 村落地理学 社会史 村落史 民俗学	スポーツ社会学演習 文化研究特講			
	(7)関連科目には、「法学(国際法を含む)」「政治学(国際政治を含む)」など、現代社会を理解し、社会学の学びを深める上で、とくに関連する学問領域の基礎的科目を配置し、これらを学修することによって社会学の相対的位置づけを知り、併せて現代社会の多角的な理解を図ります。	法学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む) 経済学(国際経済を含む) 哲学概論 倫理学概論 人文地理学Ⅰ 自然地理学Ⅰ				4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(技能、知識・理解、思考・判断、態度)	
	(8)卒業研究のうち「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、自分の専門領域について理解を深め、現代社会の課題を多角的に見出し得るために、共同作業を取り入れた教育を行います。また、4年間の学びの集大成である「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、社会現象、現代社会の課題を多角的に見出すとともに、その課題の改善、解決の方策を考える力を身につけるために、集団討論を積極的に取り入れた教育を展開します。			ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ	卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ		

常磐大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
学科基本科目	学 科 基 本 科 目	SOB-111	現代社会論	講義	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学的視点から現代社会の諸相の理解をはかるとともに、社会学の基本となる「相対的なものの見方」の基礎的素養を身につける。	(1)現代の社会現象についての基礎的事項を理解する。 (2)社会学的視点から社会現象を把握する能力を身につける。 (3)相対的なものの見方についての基礎的素養を身につける。	●		◎		③
		SOB-112	社会学概論Ⅰ	講義	2	1		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基礎的な概念(基礎社会学のうちミクロ社会学領域)について知識を習得するとともに、社会学的思考の基礎を身につける。	(1)個人をとりまく基礎的な社会について理解する。 (2)個人の社会への適応過程について理解する。 (3)基礎社会学のうちミクロ社会学の基礎的な知識を習得する。	●		◎		
		SOB-113	社会学概論Ⅱ	講義	2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基礎的な概念(基礎社会学のうちミクロ社会学領域)について知識を習得するとともに、社会学的思考の基礎を身につける。	(1)社会集団の特性について理解する。 (2)社会構造と変動について基礎的な知識を習得する。 (2)社会現象を社会学理論に基づいて理解する力を身につける。	●		◎		
		SOB-311	社会学史	講義	2	3		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の学説史を学び、社会学の成立と発展過程とその時代背景についての理解を深める。	(1)社会学の成立と発展過程について理解を深める。 (2)市民社会の成立と発展と関連させて社会学の歩みをと捉えることができるようになる。 (3)代表的な社会学理論について説明できる力を高める。	●		◎		⑪
		SOB-121	社会学研究法	講義	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学における主要な研究法を学び、実際に社会学的研究を実施するために必要な基礎的能力を獲得する。	(1)主な社会学研究法について知識を習得する。 (2)社会学研究法の考え方について理解する。 (3)社会学研究法の基礎的技法について身につける。	●		◎		
		SOB-122	社会学基礎演習Ⅰ	演習	2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するために情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。	(1)社会学文献を適切に収集することができる。 (2)文献の形式を理解する。 (3)書誌情報を正しく表記することができる。		●	◎		
		SOB-123	社会学基礎演習Ⅱ	演習	2	1		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するために情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。	(1)社会科学文献を読み解き、レジュメ形式にまとめられる。 (2)適切な引用ができる。 (3)レジュメをもとに発表することができる。		●	◎		
		SOB-221	社会学応用演習	演習	4	2	○	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するために情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。併せて現代社会の諸課題の改善・解決の方策を考えることができる能力を身につける。	(1)演習企画が立案できる。 (2)他者との協働による問題解決力が身につく。 (3)学修成果の発表技能が修得されている。		◎		●	
		SOM-111	社会調査法Ⅰ	講義	2	1		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を把握するための方法論である社会調査法の基礎的知識(社会調査の基本的事項)を習得とする。この科目は、社会調査士資格の「標準カリキュラム【A】社会調査の基本的な事項に関する科目」に対応している。	(1)社会調査の意義と諸類型についての理解できる。 (2)社会調査リテラシーの基礎が理解できる。 (3)社会調査の過程を理解できる。		●	◎		
		SOM-112	社会調査法Ⅱ	講義		◇2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を把握するための方法論である社会調査法の基礎的知識(基礎的なデータの読解と基礎的分析)を習得する。この科目は、社会調査協会の定める社会調査士資格の「標準カリキュラム【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目」に対応している。	(1)データの特性を把握できる。 (2)基礎的な集計および検定法を理解できる。 (3)データを適切に分析することができる。		●	◎		
方法論・データサイエンス領域	方 法 論 ・ デ ー タ サ イ エ ン ス 領 域	SOM-113	社会調査法演習	演習		◇2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法を実施するための基礎的な実践的能力を獲得する。なお、この科目は、社会調査士資格の「標準カリキュラム【B】調査設計と実施方法に関する科目」および地域調査士資格の「【d】統計処理に関する科目/地域統計学またはこれに類する科目」の一部に対応している。	(1)簡易な社会調査の企画・立案ができる。 (2)調査票の作成・実査・分析・報告ができる。 (3)統計パッケージの基本操作ができる。		●		◎	
		SOM-211	社会統計学	講義		2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論である社会統計学の基礎を学び、各種データを社会科学の視点で読み解くことができる能力を修得する。この科目は、社会調査協会の定める社会調査士資格の「標準カリキュラム【D】社会調査に必要な統計学に関する科目」に対応している。	(1)データの型に応じた扱い方や表し方がわかる。 (2)記述統計量の指標の意味と使い方がわかる。 (3)確率論・推定・検定の考え方がわかる		●		◎	
		SOM-212	量的データの扱い方	演習		2	3		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法の多変量解析法の知識と実践的能力を修得する。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム【E】量的データ解析の方法に関する科目」に対応している。	(1)変数を集計・分析するために適したデータに変換できる。 (2)変数タイプを理解した上で、変数間の関連分析ができる。 (3)予測モデルの作成・解釈ができる		◎		●	
		SOM-213	質的データの扱い方	演習		2	3		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法のうち、質的調査法に関する知識と質的調査法の技法を習得する。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム【F】質的な分析の方法に関する科目」に対応している。	(1)質的調査の特性について理解できる。 (2)質的調査の報告を読解できる。 (3)質的調査の企画・実査・報告ができる。		◎		●	⑪
		SOM-311	社会調査実習	実習		■6	3		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論である社会調査法の一連の過程を実地に経験することを通して、社会調査法の実践的能力を身につける。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム【G】社会調査を実際に経験し学習する科目」、および地域調査士資格の「地域調査士科目【n】地域の人文的特性に関する調査」に対応している。	(1)調査企画の立案ができる。 (2)調査票の作成ができる。 (3)他者と共同しての調査実査、分析および調査報告ができる。		◎		●	
		SOM-121	データサイエンス概論	講義		2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を読解する技法としてのデータサイエンスの基礎知識を習得する。	(1)データサイエンスの基礎的概念を理解できる。 (2)情報のデジタル化による社会変化と課題について説明できる。 (3)データリテラシーの重要性を理解できる。	●		◎		⑨
		SOM-221	データサイエンス各論A	講義		■2	2		○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を読解する技法としてのデータサイエンスの知見を用い、応用社会学領域に活用するための実践的能力を身につける。	(1)課題に対して適切なデータを収集できる。 (2)課題に対してデータを適切に加工・活用できる。 (3)データをもとに課題にアプローチすることができる。	●		◎		⑨

常磐大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。 (知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。 (思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。 (態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。 (知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう	
学科専攻科目		SOM-222	データサイエンス各論B	講義	■2	2		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を読解する技法としてのデータサイエンスの知見を用い、社会学関連領域に活用するための実践的能力を身につける。	(1)課題に対して適切なデータを収集できる。 (2)課題に対してデータを適切に加工・活用できる。 (3)データをもとに課題にアプローチすることができる。		●	◎		⑨	
		SOM-321	データ分析演習	講義	■4	3		○	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を読解する技法としてのデータサイエンスの知見を用い、社会現象を分析する実践的・応用的技能を身につける。	(1)目的に応じて、データを分析するための手法を選択できる。 (2)収集したデータの効果的な表現方法を選択できる。 (3)データ分析結果を解釈することができる。		●		◎		
		SOM-131	地理学特論A	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会を理解するための応用的学修として日本における地域社会の地理学的特性について理解を深める。 なお、この科目は地域調査士資格の「【b】日本地誌又はこれに類する科目」に対応している。	(1)日本の地域社会の多様性を理解できる。 (2)地域特性を人文地理学の知見から説明できる。 (3)地域特性を自然地理学の知見から説明できる。	●	◎			⑧	
		SOM-132	地理学特論B	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会を理解するための応用的学修としてGIS(地理情報システム)に関する知識と方法を学び、空間データを視覚的に表示し、分析する手法を習得する。 なお、この科目は地域調査士資格の「【e3】GIS 又はこれに類する科目」に対応している。	(1)GISの概念と構成に関する知識を習得する。 (2)GISの活用法について技能を修得する。 (3)GISを実際に活用し、地理空間情報の取得と作成ができる能力を身につける。	●	◎			⑪	
		SOM-133	地理学特論C	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会を理解するための応用的学修として地図学に関する基礎的知識の取得と活用力を身につける。 なお、この科目は地域調査士資格の「【e1】地図学又はこれに類する科目」に対応している。	(1)地図と地図学の意義について理解できる。 (2)読図・作図の能力が獲得される。 (3)統計資料の収集・表現の能力を身につけることができる。	●	◎				
	家族・福祉社会領域	SOF-111	家族社会学	講義		□2	1		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、基礎的な社会関係・社会集団としての家族を社会学の視点から捉え、現代社会における家族の構造と変動について理解を深める。	(1)現代社会における家族現象を新たなまなざしで捉えることができる。 (2)家族社会学の基礎知識が習得される。 (3)現代家族の変容について理解できる。	●		◎		
		SOF-112	産業・労働社会学	講義		□2	1		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、産業・労働を社会学の視点から捉え、現代社会における産業・労働の構造と変動について理解を深める。	(1)産業・労働構造の変化が理解できる。 (2)産業・労働社会学の基礎知識が習得される。 (3)現代社会における産業・労働の課題とその解決法について理解できる。	●		◎		⑧
		SOF-211	保健・医療社会学	講義		2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会の保健・医療に関する諸現象を社会学の観点から把握し、現代社会の特性を具体的事象を通して理解する。	(1)保健医療社会学の基礎的概念が理解できる。 (2)保健医療の基本的制度について理解できる。 (2)保健医療社会学の観点から社会現象を捉えることができる。	◎		●		
		SOF-212	ライフコースの社会学	講義		2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会的存在としての人間の一生を社会学の視点から捉え、歴史的、地域的な比較とライフステージの特徴について理解する。	(1)ライフコースの成り立ちと変動について理解できる。 (2)各ライフステージの特徴について理解できる。 (3)ライフコースの多様化に即して生じる社会の課題を説明できる。		●	◎		
		SOF-311	消費社会論	講義		2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、消費をめぐる通時的変化を社会変動と合わせて把握し、「消費」に対する社会学的な理解を深める。	(1)消費社会の課題に関心を持つことができる。 (2)消費社会の課題を探究する意欲と能力を高めることができる。 (3)社会構造・変動の観点から、消費行動について説明することができる。			●	◎	
		SOF-121	社会福祉の原理と政策	講義		2	2	○	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会福祉の歴史的展開過程、欧米との比較による日本の社会福祉の特性、現代の社会問題について理解し学修を深める。	(1)社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を説明できる。 (2)社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を説明できる。 (3)社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題及び、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程との関係について説明できる。	●		○	◎	③⑧
		SOF-122	社会保障	講義		2	2		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会保障の理論や仕組み、実際の社会保障の体系について理解する。	(1)社会保障の理論、方法について理解・分析し、説明できる。 (2)実際の社会保障の体系、仕組みについて理解・分析し、説明できる。 (3)社会保障の歴史的展開、そしてそれらに基づき今後の社会福祉のあり方について、説明できる。	●		◎		③⑧⑩
		SOF-123	児童・家庭福祉	講義		2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、児童やその養育を担う家庭が抱えるさまざまな福祉問題の現状と、その解決を図るための福祉施策について学修する。	(1)児童家庭福祉の分野(母子保健、障害児福祉、児童健全育成、保育、児童自立支援対策、児童虐待対策、ひとり親家庭福祉など)を説明できる。 (2)児童家庭福祉の分野での課題と施策の現状を説明できる。 (3)施策の根拠となる児童福祉法について説明できる。4)政策提言などを検討できる。	●			◎	③⑧
		SOF-124	高齢者福祉	講義		2	2		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、高齢者福祉の歴史的展開、高齢者福祉制度、高齢者福祉の関連法令を学修する。	(1)少子高齢化の現状と要因について、また高齢期における高齢者と家族の課題について説明できる。 (2)高齢者福祉の歴史的展開について説明できる。 (3)介護保険制度や高齢者福祉の関連法令について説明できる。 (4)高齢者や家族の状況について適切に理解し、支援の計画を考えることができる。	●			◎	③⑧
		SOF-125	ソーシャルワークの理論と方法	講義		2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、相談援助実践の過程を体系的かつ実践的に学ぶ。	(1)対人援助の開始から終結までのプロセスを説明できる。 (2)対人援助実践におけるアセスメントの重要性を説明できる。 (3)対人援助にかかわる記録の重要性と記録の仕方、実践の蓄積の意義を説明することができる。	●			◎	③⑧⑩
		SOF-131	民事法	講義		2	2		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の学修をより深めるため、法学や民法の基礎について学修し、法的思考力を身につける。	(1)民法を通じて法学の基本的な考え方について理解できる。 (2)民法総則を中心に民法の基本的な知識が習得される。 (3)民法を通じて身近な法律問題に対する法的思考力が習得される。	●				
		SOF-312	家族・福祉社会特講	講義		△2	3		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、家族・福祉社会領域の学びを踏まえ、現代日本における家族や福祉社会に関する事例を、複合的な視点から読み取る能力を身につける。	(1)現代の日本社会が抱える課題が理解できる。 (2)比較研究の手法が理解できる。 (3)相対的な視点から、社会現象を読み解く力が身につけられる。			●	◎	

常磐大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を探め、それらに主体的に、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
公共・地域社会領域		SOP-111	地域社会学	講義	□2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、基礎的な社会集団としての地域社会／コミュニティを、社会学の視点から捉え、現代社会における地域社会の構造と変動について理解を深める。	(1) 地域社会の変化について理解できる。 (2) 地域社会学の基礎的知識が習得される。 (3) 全体社会との関係において地域社会の特性とその変化を説明できる。	●		◎		①
		SOP-211	都市社会学	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会としての都市の特性を社会学の視点から理解し、都市社会の変動について学修する。	(1) 都市社会学の基礎的知識が習得される。 (2) 都市化のメカニズムについて説明できる。 (3) 都市社会をめぐる新たな動向とその背景について理解することができる。	◎		●		
		SOP-212	農村社会学	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、日本の農山漁村・村落の成り立ちや仕組み、変化を捉えた上で、現代農山漁村と第一次産業が抱える課題とそれへの対応について理解を深める。	(1) 農村・村落社会学の学説史が理解できる。 (2) 日本における農村社会の変動過程と農村問題について説明できる。 (3) 農村の持続と展開について理解することができる。	◎		●		①
		SOP-213	国際社会学	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、国際的な現象を社会学の方法を用いて分析し、人の移動、対立、統合、統治の現状と課題について考え、現代社会の国際的な諸問題への関心を深める。	(1) 国際社会学の基礎概念が理解できる。 (2) 国際人口移動に関連する国内外の現象を社会学の理論と関連付けて説明できる。 (3) 国際問題について社会学的視点から説明できる。	◎		●		
		SOP-311	エスニシティの社会学	講義		2	3			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、エスニシティに関する知識を習得し、内なる国際化が進行する地域社会の多様性への理解を深める。	(1) エスニックグループとエスニシティに関する基礎的な知識を習得する。 (2) エスニシティと全体社会との関係およびその課題について理解する。 (3) 日本におけるエスニシティの現状と課題について理解し、課題解決のための提案を提示することができる。	●			◎	
		SOP-214	公共性の社会学	講義		2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会における「公共」概念の形成とその変容について理解し、社会学的視点から現代社会における公共性について学修を深める。	(1) 公共性についての基礎的な知識を習得する。 (2) 公共性をめぐるこれまでの議論とその社会的背景について理解する。 (3) 脱近代における公共性の可能性について、見解を提示することができる。	●			◎	
		SOP-215	環境社会学	講義		2	2			現代社会学科カリキュラム・ポリシーに基づき、社会学的支店から環境問題の理解とその解決策、外部不経済について学び、現代社会を「環境」の視点から再考する。	(1) 環境問題の現象面と原因について理解できる。 (2) 環境問題の社会的背景について理解できる。 (3) 環境問題の解決策について提案できる。	◎		●		
		SOP-312	テクノロジーの社会学	講義		2	3			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、科学技術の進展とそれに対する人間社会の対応について理解し、科学技術導入の過程とその社会的影響を社会学的視点から学修を深める。	(1) 科学技術の発見・発明とその拒絶／受容過程に関する動向を把握する。 (2) 科学技術導入による社会の変動過程を理解する。 (3) 科学技術導入を契機とした社会変革について、構想することができる。	●			◎	
		SOP-313	災害社会学	講義		2	3			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学的視点から災害発生後の被災・復旧・復興、防災・減災について、災害研究をもとに学ぶ。	(1) 災害について社会学および周辺領域の視点からの理解できる。 (2) 防災・減災の制度面からの理解ができる。 (3) 災害・防災対応策の提案が可能となる。			●	◎	
		SOP-216	犯罪社会学	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、犯罪社会学の基礎的な事項を学修し、社会事象としての逸脱について、理解を深める。	(1) 犯罪社会学の基礎的な知識が習得される。 (2) 犯罪統計に基づく犯罪の現状について考察できる。 (3) 安心・安全な社会の実現に向けた提案ができる。		◎	●		⑩⑪
		SOP-121	刑事法	講義		2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の学修をより深めるため刑法の基礎について学修し、法的思考力を身につける。	(1) 刑法に関する基本的な考え方を身につけることができる。 (2) 刑法各論に関する基本的事項について理解できる。 (3) 刑法の機能を多面的総合的に判断することができるようになる。	●	◎			
		SOP-122	交通地理学	講義		2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、交通地理学的手法による交通の分析・判断・洞察の技能を習得する。	(1) 交通地理学の基本的な考え方を身につけることができる。 (2) 地域交通政策を理解することができる。 (3) 交通地理学的手法による交通の分析・判断・洞察の技能を習得することができる。 (2) また交通に関する「地理的な見方や考え方」を身につけることができる。	●			◎	①
		SOP-313	地域研究特講	講義	△2	3	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会学の発展的課題として地域社会変動、とくに「開発」に焦点を当て、全体社会との関係の中での地域社会の位置づけを学び、俯瞰的な視点で部分社会を捉える能力を身につける。 なお、この科目は地域調査士資格の「【d】統計処理に関する科目／地域統計学またはこれに類する科目」の一部に対応している。	(1) 地域社会変動の基本的な機序について理解できる。 (2) 事例研究の意義についての理解できる。 (3) 微視的／巨視的視点から地域社会を把握することができる。			●	◎	
		SOC-111	文化社会学	講義	□2	1	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会における文化の多様性について学修し、文化と全体社会の関係について理解する。	(1) 現代社会における文化の諸相について基礎的知識を習得する。 (2) 社会学および関連領域における文化研究の動向について把握する。 (3) 現代社会における文化と社会の関連、およびその課題について理解する。	●			◎	①
		SOC-211	宗教社会学	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学史の文脈に沿い宗教研究を整理し、信仰世界の多様性の理解、現代社会における日本人と宗教の関係について理解を深める。	(1) 社会学史における宗教研究について基礎的知識を習得する。 (2) 信仰世界の多様性を理解する。 (3) 宗教と現代社会の関わりについての理解を深める。			●	◎	
		SOC-221	社会人類学	講義		2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての文化・社会人類学の視点を学び、文化と社会の多様性について、事例研究を基に理解を深める。	(1) 文化・社会人類学の基礎的知識を習得する。 (2) 文化・社会人類学の方法論的特徴を理解する。 (3) 日本および世界の文化・社会の多様性を理解する。	●		◎		①
		SOC-212	スポーツ社会学	講義	■2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、スポーツを社会学視点から捉え、スポーツの社会的意義と今日的課題について理解を深める。	(1) スポーツ社会学の基本論点を理解する。 (2) スポーツの社会的役割への理解を深める。 (3) 現代社会におけるスポーツをめぐる諸問題・諸課題の理解が可能となる。			●	◎	
		SOC-222	スポーツ人類学	講義	■2	2	○			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての文化・社会人類学の視点を学び、スポーツと文化と社会との関係について学修を深める。	(1) スポーツを通して、日本および世界の文化・社会の多様性を理解する。 (2) スポーツ化の過程を理解する。 (3) スポーツ研究における事例研究の意味を理解する。	●		◎		

常磐大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
文化研究領域		SOC-311	スポーツ社会学演習	演習	■4	3	○	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会におけるスポーツと社会の関係を捉え、社会調査の手法を用いて実証的にデータを収集し、分析する能力を身につける。	(1) スポーツと社会に関する調査課題を立案できる。 (2) スポーツと社会に関する適切なデータを収集・分析できる。 (3) 他者との協働による問題解決力を獲得する。			◎	●	
		SOC-223	都市地理学	講義		2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての地理学の視点を学び、地域社会としての都市の特性を地理学の方法を用いて把握する能力を身につける。	(1) 都市地理学の基礎的知識を習得する。 (2) 地理学的視点から都市の分布や構造とその特徴を説明できる。 (3) 現在の都市で発生している諸課題を現代社会の諸問題と関連させて捉え、その解決策について考察できる。	●			◎	
		SOC-224	村落地理学	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会を理解するための学修として村落地理学の視点を学び、村落社会を空間的に把握するための考え方を習得する。	(1) 村落地理学および村落地理に関する基礎的知識を習得する。 (2) 日本の村落社会の類型と性格を地理学の視点から確認する。 (3) 村落社会を空間的に把握する手法を身につける。	●			◎	
		SOC-225	社会史	講義		2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての歴史学の視点を学び、社会史の成立と展開過程を学修し、社会を歴史学的視点から捉える手法について学ぶ。	(1) 社会史の学説史を理解できる。 (2) 社会の歴史的・文化的理解を深める。 (3) 社会史の手法について理解できる。	●			◎	
		SOC-226	村落史	講義		2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての歴史学の視点を学び、地域社会を理解するための学修として現代日本社会の基層をなす村社会の構造と特質、その展開を学ぶ。	(1) 前近代の村社会の特質と展開を、現代日本の社会的・文化的基層として理解できるようになる。 (2) 村をめぐる人と人の関係(村内外の住民関係、領主と領民の関係など)、人と自然の関係の歴史を踏まえ、将来のよりよい社会像を構想できるようになる。 (3) 先人である百姓の生業と暮らしを豊かに復元・イメージし、現代・将来を生きる自分たちのあり方を見つめ直す鑑とする。	●			◎	
		SOC-227	民俗学	講義		2	2			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての日本民俗学の視点を学び、日本社会の基層をなす民俗社会の構造と変容を知り、日本社会・文化への理解を深める。	(1) 日本民俗学の基本的な考え方を理解できる。 (2) 民俗変容についての理解を深める。 (3) 現代日本を民俗学の視点から捉えることができる。	●			◎	
		SOC-312	文化研究特講	講義		△2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代日本の文化事象についての発展的な学びを通し、文化の観点から現代社会に対する理解を深める。	(1) 文化研究の基本的な考え方を理解できる。 (2) 現代日本の文化的特徴について理解を深める。 (3) 文化研究を実際に行うための基礎能力を獲得する。	●		◎		
関連科目		SOO-101	法学 (国際法を含む)	講義		2	1			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての法学の視点を学び、法の基本的性格を理解し、法学的思考力を身につける。	(1) 法の概要を理解できる。 (2) 日本の法体系と法の適用の仕組みについて説明できる。(3) 社会の様々な事象について、法的観点から分析できる。	●				
		SOO-102	政治学 (国際政治を含む)	講義		2	1			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての政治学の視点を学び、権力と支配といった政治的営為、さらには国際政治についての理解を深める。	(1) 政治学の基本的な考え方と基礎知識を習得する。 (2) 国際情勢を把握するための基礎的な視座・分析枠組みと専門知識を身につけることができる。 (3) 現代社会の様々な事象を政治学的視点から洞察することができるようになる。	●		◎		
		SOO-103	経済学 (国際経済を含む)	講義		2	1			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての経済学の視点を学び、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎知識を習得する。	(1) 経済学の基本的な考え方と基礎知識を習得する。 (2) 経済学の観点から社会的事象を論じることができるようになる。 (3) 経済理論と政府統計等のデータを応用し、政策の立案・提言ができるようになる。	●		◎		
		SOO-104	哲学概論	講義		2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての哲学の視点を学び、ヨーロッパと東洋(中国)の哲学と思想について基礎的知識を習得とする。	(1) 哲学の学説史を説明できる。 (2) 西洋と東洋の哲学・思想の概要を説明できる。 (2) 学問の基層に哲学的思考があることを認識できる。	●		◎		
		SOO-105	倫理学概論	講義		2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学関連領域としての倫理学の視点を学び、日本人の倫理思想を形成してきた儒教思想および仏教思想、およびキリスト教を基本とする西洋の倫理思想を考察し、現代日本の倫理思想についての理解を深める。	(1) 倫理学の基本的な考え方と基礎知識を習得する。 (2) 現代日本人の倫理観を形成している様々な倫理思想を知る。 (3) 自分や他人の行動を客観的に考えることができるようになる。	●		◎		
		SOO-106	人文地理学 I	講義		2	1			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会を理解するための基礎的学修として人文地理学の基礎を学び、地域社会を空間的に把握するための考え方を習得する。	(1) 人文地理学の基本的な考え方と基礎的知識を習得する。 (2) 人文地理学における空間把握についての方法の基礎的知識を習得する。 (3) 人文地理学の方法を用いて、地域社会の構造と変動を把握することができる。	●		◎		
		SOO-107	自然地理学 I	講義		2	1			現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会を理解するための基礎的学修として自然地理学の基礎を学び、地域社会を自然的立地要件から把握するための考え方を習得する。	(1) 自然地理学の基本的な考え方と基礎的知識を習得する。 (2) 地域社会を自然地理学的背景から捉える方法の基礎的知識を習得する。 (3) 自然地理学の方法を用いて、地域社会の特性を把握することができる。	●		◎		
卒業研究		THS-201	ゼミナール I	演習	2		3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、卒業研究の準備段階として先行研究の整理、文献講読、データ収集等の研究基礎力を身につける。	(1) ゼミナール I で取り扱う現代社会に関連するテーマについて理解できる。 (2) 研究するうえでの倫理的態度や基礎的技能を身に付けている。 (3) 必要な資料を収取し、発表のために活用できる。		◎		●	
		THS-202	ゼミナール II	演習	2		3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、卒業研究の準備段階として先行研究の整理、文献講読、データ収集等の研究基礎力を身につける。	(1) ゼミナール II で取り扱う現代社会に関連するテーマについて理解できる。 (2) 研究を進めるための基礎的知識・技能を身に付けている。 (3) 必要な資料を収取し、発表のために活用できる。		◎		●	
		THS-301	卒業論文 I	演習	2		4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、学士課程における学修の集大成となる「卒業論文」の作成に向けた学修を行う。	(1) 卒業論文を仕上げるための計画を立てることができる。(2) 卒業論文を作成するために必要な知識・技能を身に付けている。 (3) 文献調査を進めることができる。		◎	○	●	
		THS-302	卒業論文 II	演習	4		4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、学士課程における学修の集大成となる「卒業論文」の作成に向けた学修を行う。	(1) 卒業論文を計画に沿って仕上げることができる。 (2) 基準に見合う卒業論文を作成できる。 (3) 卒業論文を作成するための倫理的態度や技能を身に付けている。		◎	○	●	

常磐大学人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式その1)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
---------	-------------	-------	-------	--------	--------	----	-----	-----	------------	-----------------------------------	-------------------	--	--	---	--	---

【2024年度以前適用カリキュラム】 常磐大学 人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式その2)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

		SOW-342	ソーシャルワーク実習(専門)Ⅱ	演習		4	4	○	○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていけるよう実践的に学んでいく。すなわち、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組み、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチ、スーパービジョン体験的等を学ぶ。実習後には、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう指導を行う。	(1)地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みの実践的に理解し説明できる。 (2)ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについての実践的な理解(実習を通じて体験した事例での理解も含む)し説明できる。	◎			●	
		SOW-344	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習		1	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前準備として、実際に実習を行う実習分野・施設・機関の理解、実習先で関わる他の職種の種類や業務、実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術に関する理解、実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解、実習計画の作成、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務や価値規範の理解を扱う。また実習後では、実習体験の報告、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理、実習後の自己評価・他者評価、全体総括会、実習総括レポートの作成等を通じ、体験の振り返りと既存知識との統合を行う。	(1)ソーシャルワーク実習の意義の理解。 (2)社会福祉士として求められる役割の理解と、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢の涵養。 (3)ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的な理解と、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力の習得が可能となる。	◎			●	
		SOW-346	ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習		2	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅰの体験を踏まえ、ソーシャルワーク実習Ⅱでは、様々な分野や種別に配属され、60時間以上の実習に取り組む。個別の場での体験を通じながらも、通底的・普遍的なソーシャルワーク技術についての学びを深め体得する。社会福祉施設・機関で60時間以上の現場実習を行い、相談援助実習担当教員が週1回、実習先への巡回指導を行う。	(1)ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力の涵養。 (2)生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源の把握。 (3)施設・機関等が地域社会の中で果たす役割の実践的な理解。 (4)総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容の実践的な理解が可能となる。	◎		○	●	